

### 栽培漁業の発展

・人為管理度 ... 増殖<養殖

・海中採苗 ⇒ 養殖

- 藻類 ... ノリ, ワカメ
- 貝類 ... カキ, ホタテ(地撒は"増殖")
- 他 ... ホヤ

・陸上育成種苗 ⇒ 増殖

- 貝類 ... アサリ, アワビ, ホッキ
- 魚類 ... ヒラメ, マツカワ

・採取した稚魚や卵による

- ウナギ(養殖), マグロ(蓄養), 週上サケ(放流, 養殖)

※宮城県の養殖ギンザケは、Washington州の川の週上サケからとった卵を商社が空輸して孵化業者が稚魚に育成したものを使用。

※ウナギはいま枯渇問題に直面。地中海産が大半の安い増殖マグロも同じ運命。

・完全養殖はコスト、品質的に実験段階

年 できごと

1952 松岩(気仙沼)で延縄垂下式のカキ養殖法開発

1953 大槻洋四郎氏, 小乗浜でワカメの新養殖法に成功

1958 国鉄女川臨港線開通

1959 気仙沼波路上に県営ノリ人工採苗場設置(ノリ養殖は女川では適地少なく普及せず)

1960 チリ地震津波。被災1,217世帯, 6,679人, 死者0

ワカメ養殖, この頃までに雄勝, 志津川湾に広まる

沿岸漁業改善事業で女川湾に沖合養殖施設。外洋養殖普及

1962

1965 県道石巻・女川線の舗装工事完工

ワカメ養殖, この頃までに三陸各地に普及

ホタテ養殖, 女川湾で試みられ, 以後増加へ

1973 ワカメ養殖経営体241でピークに

この頃ホヤ養殖が急増。ワカメカキ, ホタテと兼業

1974 横浦でアワビの中間育成が試みられる

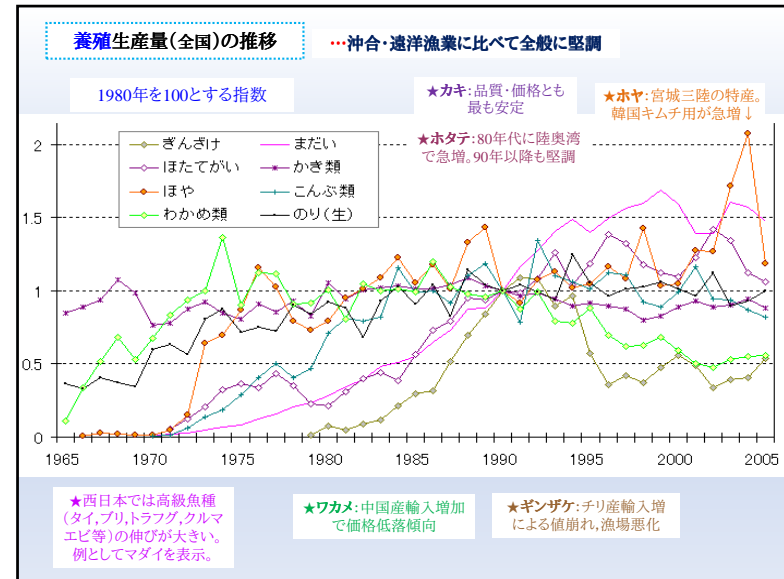
1975 日露漁業が北米からゲンザケ養殖導入, 漁家に参加呼びかけ

1977 谷川浜に宮城県栽培漁業センター開設

1983 町内のギンザケ養殖, 27経営体

ギンザケ養殖122経営体。志津川町を抜いて生産量日本一

1986



030918河北  
ホタテ  
陸奥湾東部ヤマセが影響か  
稚貝へい死最大77パー

陸奥湾の東部海域でホタテの稚貝が大量に死んでいる。原因は不明だが、ヤマセの増殖が影響しているという。稚貝の死は、ホタテの養殖に大きな被害をもたらしている。漁業者は、稚貝の死を食い止めるために、さまざまな対策を講じている。しかし、効果は限られている。漁業者は、今後の対策を模索している。

07.2.09  
「ハリカン症」被害1億円超か  
ノリ芽落ち深刻  
石巻市

石巻市の養殖業者は、ハリカン症の被害に悩んでいる。ノリ芽が落ち、収穫量が激減している。被害額は1億円を超えている。漁業者は、ハリカン症の原因を調査している。しかし、原因は不明である。漁業者は、今後の対策を模索している。

1997.9.15  
ピンチ  
養殖ギンザケ

養殖ギンザケのピンチ。養殖業者は、ギンザケの養殖に悩んでいる。ギンザケの養殖は、高コストで、収益が低い。漁業者は、ギンザケの養殖を続けるかどうか悩んでいる。しかし、ギンザケの養殖は、地域経済を支えている。漁業者は、今後の対策を模索している。

自浄能力限界  
真っ白いカビ  
海底にたい積

自浄能力限界。真っ白いカビが海底にたい積している。これは、水質汚染の指標である。漁業者は、水質汚染の原因を調査している。しかし、原因は不明である。漁業者は、今後の対策を模索している。

